（別紙4−1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人　ふれんど		
事業所名	グループホーム　のどか　（1ユニット）		
所在地	苫小牧市明徳町4丁目4-17		
自己評価作成日	令和　3年　11月　15日	評価結果市町村受理日	令和　4 年　3月　25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600933-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5　芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和　3年　12月　 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑのどかは一人一人を尊重し、その人らしく生活できるように支援させていただきます。それまでの生活習慣を大事に安らぎのある生活が送れるよう、職員の研修や訓練を定期的に行い個人のスキルを上げ、介護力の高い施設を目指しています。複合施設であることのメリット生かし、機械浴で歩行が困難な入居者様の入浴を行う事が出来たり、施設内の美容室で髪を切ったり、パーマをかけることができます。毎日体操やレクを行い、入居者様と職員の笑顔が絶えない施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所はJR錦岡駅と高速道路苫小牧西インターの中間に位置し、広大な敷地には法人グループの高齢者複合施設や各事業所が有り、事業所とは廊下でつながっているため、交流や災害時の協力体制が取られている。コロナ禍のため地域との交流は自粛しているが、町内会の行事や高齢者複合施設夏祭りに住民や幼稚園児、小学生等の沢山の方々との交流を深めていた。野菜を育てたり、中庭プランターの花の水やりや洗濯物を干すなど、日常的に外気に触れる支援をしている。又、玄関前の桜を見たり、夏祭りを催してゲームなどを楽しんでいる。食事では調理レクリエーション日を設け、献立を職員で話し合い、一人ひとりの好みを取り入れた食事を提供し大好評を得ている。職員は居室で趣味の編み物をして過ごす利用者を見守ったり、帰宅願望の際は家族から電話などで協力を得て落ち着いて過ごせるようを支えている。医療面は母体医療法人の各医療機関で身体状況に合わせ、リハビリ・入院などとスムーズに移行ができ、適切な医療を受けられる体制である。看護師資格を持つ職員が常駐しているのも家族の安心感に繋がっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4−1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のどか理念をもとに日々目標に近づけるようスタッフで共有しケアを実施している。	地域密着型事業所としての役割を認識し、管理者・職員で作り上げた理念を玄関、共用空間、事務所に掲げている。理念は毎月の会議で話し合い、日々一人ひとりを尊重するケアに取り組み、職員全員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行の影響で地域の方々との交流は中止しています。	コロナ禍で町内会との交流はないが、書面での運営推進会議録を郵送で届け、事業所の状況を伝えている。11月の運営推進会議から委員も参加の会議で地域の知見者が参加をしている。	以前交流があった小学校は他の地区と統合となり、現在は苫小牧支援学校が設立され、当学校との交流も期待できる。行き来の制限がある中での幼稚園児との交流方法なども検討し、新たな取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス流行の影響で地域の方々との交流は中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス流行の影響で今年度は資料の配布のみ実施していた。	年6回開催の運営推進会議は書面で入居者状況、活動内容を報告している。11月の運営推進会議から参集開催が可能となった。会議は市介護福祉課職員、包括支援センター職員、地域民生委員、家族が参加し意見や助言を得ながらサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム協会に加盟している。運営推進会議で介護福祉課に資料を配布している。	市担当者、包括支援センター職員は運営推進会議に参加し、書面会議の際は担当者へ会議議事録を届けている。今後も社会福祉協議会のいきいきポイント事業や研修に参加しながら協力関係を築くよう取組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止についての方針や知識を深められるような研修及び定期的な委員会を3ヶ月に一度実施している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、身体拘束を予防するための事故防止に係る対策の提案、不適切な言動についての資料研修を実施している。外部研修は伝達し適切なケアへの意識統一を図っている。困難事例の取り組みは日々の声かけのあり方や、話し合いを何度も行うケアに取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての知識や理解を深める研修を開催、日々の介護方法の検討を行い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人グループ内等での研修に参加し、学習する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約の内容以外にも施設での生活内容や緊急時対応方法などを説明し、理解や不安の解消をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに苦情ボックスを設けている。ほかに面会や電話連絡時などでも家族の意見を聞いている。	コロナ禍の中ではドアの窓越しの面会支援や電話で様子を伝え、担当職員から定期的にのどかだよりを手紙と共に写真を同封し、要望や意見を聞く機会を設けている。10月からは感染対策を講じ、15分の面会を実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや職員との面談時に意見を聞く機会を設けている。	申し送りノートや業務日誌、毎月のミーティング、年2回の面談から職員の意見や要望を得て、運営に反映させている。新人への研修は2週間かけて行っている。毎月1回の法人研修、ズーム会議や内部研修などからも職員の意見、提案を受け運営やケアの充実につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修制度や自己評価、人事考課制度を設けている。60歳以上の職員とは毎年雇用継続について面談を行い、意向を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修への参加、定期面接、本部との面接の他に新人にはプリセプター制度で業務を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会、協議会に加入しているが、今年度はコロナウイルスの影響で交流の機会はなかった。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族と面談を行い、情報収集する際に要望や不安の聞き取りも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人や家族と面談を行い、情報収集する際に予防や不安の聞き取りも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の状況を見極め、本人に合った支援をできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中での家事作業を共同で行うことにより、役割りを作ったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会やお便りで普段の様子をお知らせしている。他にも何かあれば電話で様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルス流行の影響で外部との交流は控えている。	コロナ禍により馴染み人や場所などの支援は自粛している。複合施設の美容室を利用したり、桜を玄関から眺める等、ホームでのささやかな支援をしている。敷地内の畑での野菜作りや高齢者複合施設と当事業所に別々に入居している夫婦の行き来などもサポートし、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は常に気を付けて把握している。トラブルなどにならないような席の工夫や居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、入院したり他の施設へ住み替えた方であっても、ご家族様の相談があるときは答えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での思いや意向は日々の生活の中で聞き取り把握し、スタッフ間で共有している。	利用者の望む暮らしを会話や表情から汲み取り、一人ひとりの過ごし方を尊重し、思いに沿った支援をしている。会話での把握が困難な場合は、利用者の生活暦や日々のケアで様子を確認し出来る限り思いに沿うように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシートの聞き取りから情報を活用しスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングの時やミーティングの時に評価している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者も介護に携わり、生活上の把握に努めモニタリングやミーティング時にスタッフで共有し、家族には電話で連絡している。	介護計画は長期6ヵ月、短期3ヵ月で見直し、利用者、家族の意向を踏まえた介護計画書を作成している。生活機能アセスメントも適宜更新され、担当者がモニタリングを実施し、生活記録シートも参考に利用者の状態を分析し課題を得て介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを使用し、日々のケアの変更事項や注意を記入し、スタッフ間での情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活記録などから、その時のニーズに対し、申し送りなどで検討しすぐに実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の桜公園で花見をしたり、畑での野菜作り、漬物漬けなど生活の中に楽しみを取り入れるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重してかかりつけ医を決めている。協力医療機関とは連携を取りあい、適切な治療が受けられるように情報交換している。	入居前のかかりつけ医の継続支援を行なっているが、入居後は協力医に変更などを含め利用者と家族の希望ので受診できる体制を支援している。他科受診記録は協力医と電子記録で連携が取られ、週1回の往診時に適切な医療を受けている。職員は急変時に対応した研修も計画的に実施している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づいたことは看護職員に連絡して、その都度相談し適切な支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は電話連絡やお見舞いなどで情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化、終末期における見取りについての取り組みについて説明と同意を得ている。	入居時、介護度が重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を説明し、同意を得ている。事業所は、医療と高齢者複合施設と協力体制が得られている中で、重度化や終末医療、見取りなどの状況を考えながら連携が取られるよう利用者、家族の希望に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや研修で定期的に訓練している。(誤嚥、窒息時の対応など)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の災害時訓練や年に一度のBCP訓練、停電想定訓練を入居者様参加で行っている。	災害時対応手順・通報機関一覧を共用空間に掲示し、年2回避難訓練を実施している。10月は夜間火災を想定した訓練や、消火器訓練を高齢者複合施設と協力の下、行なっている。事業所独自の食料も十分な備蓄をしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから言葉使いや、名前の呼び方など職員一人一人が入居者様を尊重した言葉使いを気を付けている。	身体拘束廃止に関わる研修やスピーチロック研修で人格の尊重について学び、排泄介助は羞恥心に配慮した重要な支援との思いをもちながら日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望が意思決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中どこでどのように過ごしたいのかについてはご本人まかせにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身なりを整える支援をしたり、季節に合った服装ができるようにご家族に差し入れをお願いすることもある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなどを共同作業として一緒に行ったり、メニュー決めでは利用者に人気のメニューを取り入れたり、季節感のある食事を心掛け提供している。	調理レクリエーション日を設け、全員が関わるような献立にして、食欲も増す大好評な取り組みとなっている。園芸部で育てた野菜を取り入れたメニュー、年忘れ会は出前を取るなど、日々の食事や行事食を楽しみ、利用者の力も活かした支援となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた水分量の提供や栄養バランス、カロリーの確保ができるように計量している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録から排泄パターンの割り出しを行い、時間を観ながら排泄への声掛けや誘導を行っている。また、排泄へのサインも見逃さないように観察している。	全員の排泄間隔を排泄チエック記録や表情、仕草から声をかけ誘導しトイレでの排泄支援をお行なっている。失敗の際はさりげなく声をかけ、羞恥心に配慮し夜間帯排泄間隔が頻繁な対応など、一人ひとりに沿った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日課の体操、散歩などの運動を便秘予防に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の時間帯を中心に本人の体調や気分に合わせて個別に対応している。時には大浴場も使用して入浴を楽しめるようにしている。	入浴は天然温泉（ナトリウム塩化物強塩泉）のお風呂や高齢者複合施設大浴場を利用している。ゆずを保存し、冬至にゆず湯を楽しんでもらえるよう計画をしている。拒否の利用者には家族の協力や気持ちに寄り添い無理強いせずに対応を工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく、居間のソファーなどでも休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報についてはいつでも確認できるようにしてある。薬の内容の変更などは連絡ノートで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活上から把握している本人のし好や好みを生活の中で取り入れて個別に支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス流行の影響で外出は中止していた。	コロナ禍の中では遠出の外出は出来ないが、野菜作りや中庭のお花の手入れ、玄関前の桜を眺めたり、事業所夏祭りにゲームを楽しむなどの支援をしている。10月から家族との面会や1時間の外出も出来るようになり、利用者、家族の希望や安心となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お金を所持しているが、今年度は外出し使用する機会はなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族へ電話したり、はがきを出したりしている方がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファーを置き、食堂の椅子にも好きな時に座りくつろげるようにしている。季節感や楽しみを感じられるように作品を飾ったり、生活の写真を飾ったりしている。	台所を中央に居間と食堂の共用空間は広く、テーブルの配置は距離を取り、利用者は好みの椅子や定位置でテレビを見たり、中庭を眺めながら思いおもいに寛げる空間となっている。和室はソファーやテレビを置き、等季節感のある飾り付けをしながら、気の合った利用者同士が居心地よく過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いの場所でくつろげるよういすやテーブルを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはなるべく自室で使用していた使い慣れた、なじみの物を持ってきていただいたり、家族との写真を飾ったりしている方もいる。	利用者一人ひとりの状態に合わせ表札を掲げている。居室には洗面台、クローゼット、カーテンを設備し、使い慣れたソファーやタンス、テレビなど持ち込み写真を飾り自分らしい居室となっている。10畳の居室は動線に応じて家具の配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を提示したり、廊下に手すりをつけ自分で伝い歩きができるように工夫したりして自立に支援している。		